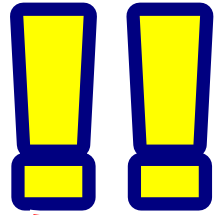


不良問題で支えてくれた松井さんと記念撮影



始動



小集団活動に潜入
その内容は...



作戦会議と、なにやらレイアウトらしきお手製模型が...

遅れているーヤバイ

働きやすい職場を目指して

2月3日土曜日朝8時、生産量も少なく平穏な日々が続いていた工場の一角に8名の従業員が集まった。「遅れている。このままじゃ1位にはなれねーぞ」
昨年、ヤマハ発動機改善事例発表会にて優秀賞を受賞した森町事業所で行われた作戦会議での一コマだ。

「就任当初、いきなりマイナスからのスタートというところもあって自分が引つ張って来た。その中でナット溶接機の復元活動や生産性向上、ロボットの生産性向上でも取り組んで来た。元々真面目で明るい人間が多い職場。職長が置ければ一人の人間が引つ張るより、全員で力を合わせて取り組んだ方が成果も大きく出せるはず」
所長の期待も大きい。

特徴は作業が素人の所長を中心に、日々の生産を担っているベテラン・中堅・若手メンバー、現場と事務をカバーする女性陣、グルンドフォースポンプで派遣作業を行っているメンバーが一堂に会して進めることだ。この意図を所長はこう説明する。
「現場の事よくわからないから。みんなの意見を聞かないと何や、就任1か月で不良問題起こせば、嫌でもみんなの力を借りないと何もできないってわかりますよ」と自虐的に話す。

キーパーソンはリーダーの前田だ。「1位じゃなきゃだめだよって伝えている。1位目指さないと適当になるし、細部にこだわらない。どんな結果が出ても悔しいと思わない」所長の要求は厳しい。「事を進める推進力があるから。失敗しても周りの社員がフォローすればいい。大きい失敗にならずなときは自分がストンプをかけるから多分大丈夫。上手くいくはず」と前田を分析する。

昨年の悔しさをバネに

若手成長の機会に

今年の全社集会で行われる予選会は1位を目指す。リーダーには女性社員の前田。サブリーダーに若手の成長株である中村。脇をベテラン、中堅社員、そしてグルンドで活躍しているメンバーが固める。今回所長は直接参加しない。今回事業所にも所長の考えがあるようだ。
「1位になれなかった瞬間はムカつてしまった。来年やっばいやらうと思って、一晩寝たら引退しようと思った」と心境の変化があったようだ。

若手の中村にも期待が高い。「黙々とやる子。その姿を先輩が見て、また成長していく。いい循環が出来つつある」と評価する。チームとして結果を出すことに拘る森町事業所。今回の内容に関して取材したが未だ非公開放だという。「優勝目指してるから。そりゃー秘密だよ」と所長もけむに巻く。「ただバウポイントがね。あれが苦手で。誰かフリーエージェントでうちの事業所に来てくれないかな」と弱点を見せながらも、虎視眈々と優勝を目指す森町事業所に今後注目したい。

組織で仕事を!